



特定非営利活動法人



<http://nepai-mika.jp>

平成26年 春号 NO.51

ネパール・ミカの会

平成26年4月20日発行 194-0035 東京都町田市忠生2-5-36 tel042-791-0602



「夢の中をめぐる。ネパールの旅」

NPO法人ネパール・ミカの会

理事長 齋藤 謹也

「第17次・ネパール教育支援の旅」

「教育支援関係の概要報告」

理事 西澤 忠

第17次ネパール教育支援の旅は3月5日に日本を出発し、カトマンドゥで1泊して翌日「ルンビニ地区」を皮切りに「タンセン地区」、「ポカラ」、「バクタブル」、「ナガルコット」と廻り再び「カトマンドゥ地区」に戻るハードな日程でしたが3月13日に無事帰国しました。

1. 期間；2014年3月05日～3月13日
2. 参加者；10名（肩書・敬称略）
日本から 齋藤 謹也・齋藤 美智子・今村 旭・中野 千恵子・西澤 忠・濱崎 ヤスエ・弘津 肇・松浦 陽子・和田 泰子
安元 安紀子
現地から ヌルブラマ氏
3. 日程；（宿泊ホテル）
3/05～06 日本→香港→カトマンドゥ（Vaishali-hotel）
3/06～08 カトマンドゥ→ルンビニ「支援校10校訪問」（笠井ホテル）
3/08～09 ルンビニ「支援校・候補校2校訪問」→タンセン
「支援校先生と交流他」（Srinagar(P)Ltd-hotel）
3/09～10 タンセン「トリブバン大学理系校訪問」→ポカラ
「バザー用品買物」（Hotel Days Inn）
3/10～11 ポカラ→カトマンドゥ→バクタブル
「バザー用品買物」（Sunny Gest House）
3/11～12 バクタブル→カトマンドゥ「パドマ・カニヤ女子校訪問」
→ナガルコット（Hotel Country Villa）
3/12～13 ナガルコット→ボダナート「タマン前大使と交流」
→「バザー用品買物」→カトマンドゥ→羽田

今回も図書を寄贈した他、メンバーで手分けして持参した支援物資を既支援校の児童・生徒を中心に一人ずつ手渡し子供達の喜ぶ笑顔に多く触れることが出来ました。全ての訪問校について支援内容を次のページに示します。

[1] ルンビニ地区

ルンビニ地区の既支援14校および支援候補4校を対象として、3月6日に既支援校6校、3月7日に既支援校3校と支援候補校1校を、更に3月8日タンセンに向かう途中にある既支援校1校と支援候補校1校、合計「既支援校を10校と支援候補校を2校」訪問・視察しました。



カトマンドゥから、空の旅、世界の屋根ヒマラヤの山々を見ながら、釈尊生誕地ルンビニに着く。いつもと変わらぬ旅の出発。おかげで20回以上を数える。すぐには聖地公園に向かわず、支援校を数校めぐってから、宿泊地笠井ホテルに向かう。少しずつ道路はよくなり、学校も、生徒達も、教育の恵みを受けて、しっかりしてきている。

ほこりっぽい、私達が町田街道と呼ぶ街道をぬけていく。いつもと変わらぬ教育支援の旅。でも、少しずつ変わってきているのは、私達が着く頃、そのバスを見つけた子ども達が一生命学校にとんでくる。自信が、そしてよこびがあふれている。

「ネパール・ミカの会」という名前を知っていて待っている子ども達。何も変わらない風景。でも、少しずつ受け入れる心が変わってきているように思える。子ども達目（ミカ）もあいかわらず美しい。その瞳の輝きに、子ども達の未来への意志が見えるようだ。まるで星のような。

ここが私達にとって、イメージーションの夢の翼を広げる理想郷。今年は、地鎮式に参加できた。これもよかった。

内乱がおさまって、道路がよくなり、タンセンへの旅。ポカラへの旅も、まあ気持ちよくなるようになった。17年前のトイレに困った旅からは格段によくなった。

カトマンドゥの世界遺産の街バクタブルの、タマディ広場の宿泊も初めて。ナガルコットの丘、あいかわらずこれもよかったなあ。空想の中をめぐるような旅になったように思われる。

文化、自然、風景を通じてネパールの魅力を感じるだけでなく、「教育」を通してふれ合う子ども達、教師達との「手と手」「目と目」を交えての交流は、両方相まって忘れがたいものになる。

そう、何回行っても、新鮮に感じる「不思議」の旅ですね。次は一緒に行きましょう。

第17次教育支援の旅支援状況表

学校名(略名)	支援内容						備考
	図書	袋	ミカノート	鉛筆	テニスボール	その他	
サラソティ小学校		○	○	○	○	○	
シッタルダ小中校			○		○		
ティナウ小中校	○	○			○		
スンディー小中高校					○		
ジャナヒート小学校			○			○	
ビバルハワ小中校			○	○		○	
マズワニ小中高校	○	○*	○	○*		○	※3年生以下 *4年生以上
アディアリ小中校	○						
ヤナトラハ・ハイスクール	○	○*	○*	○*			*8年生
グルワニマイ小中高校	○	○	○		○	Tシャツ	
トリブバン大理系校	○		○	○	○+バレーボール4個	空気入れ2個	他タンセン地区支援校に図書
パドウマカニヤ女子校	○			○		○	



1) シリ・サラソティ小学校「現在2教室、約310名の児童 在学中」

インド国境に近い本校は敷地も広くまた村人達の熱意によって校舎建築が決まっています。今回日本で言うところの「地鎮祭」が児童・生徒、先生、村の関係者およびミカの会参加者参列のもと盛大に行われました。

建設工事の安全および竣工に向けて資材が早く届きますよう全員で祈願しました。続いて児童・生徒を始め先生方・村人関係者と交流を図るため、中野さん・和田さんによるオカリナ演奏付きで“春がきた”をネパール語で書いた歌詞を見ながら合唱しました。大変盛り上がったひと時でした。



2) シリ・ジャナヒート小学校「現在5クラス、約270名の児童 在学中」

ビバルハワ小中高校から約2.5Km15分のところに所在する本校は、予算が打ち切れ内装を中断している「2部屋」を学校側の要請によりミカの会で改装することが決まっています。

1教室と1図書室に改造する予定ですが、写真で見ると天井および窓枠などの整備も必要と思われます。



[2] タンセン地区

1) 支援校先生方との交流・懇親会

支援校7名の先生方と交流・懇親会が3月8日夕方からレストランで開かれました。去年はひどい雨の中での開催で遠くの先生方は来られなかったのですが、今年は天気にも恵まれてセン小中学校からも先生が参加されました。また学生の時ミカの会の教育支援を受けた方がミレニアム高校の先生になって今回参加されたとのお話もあり、「ミカの会」の活動の歴史を感じる一幕もありました。懇親会の後半になって“レッスン フィリリー”をミカの会メンバーが合唱すると先生方が踊る一幕もあり、更に中野さん・和田さんによるオカリナ演奏で日本側参加者が“四季の歌、故郷”を合唱して披露しました。大変盛り上がった有意義な交流・懇親会であったと思っています。

2) トリブバン大学理系校

3月9日朝訪問しミカノート・鉛筆およびテニスボールを渡しました。更に昨年訪問時に学生達から要望のあった運動具を今回「ネパール・ミカの会」に入会し支援の旅に参加した安元会員がバレーボール4個と空気入れ2個を寄贈しました。学生たちは早速ネットを張ってゲームを楽しんでいました。引き続き図書室およびバイオ・化学・物理などの実験室を視察しました。視察途中で待ち構えていた学生から試薬品他の支援要請がありました。帰り際に学生であり「Karuwa bi-weekly 新聞社」の“ラム サル マガラ記者”からミカの会の活動について理事長始め参加者全員がインタビューを受けました。

3.所感

今回もルンビニからタンセンを訪問しましたが、タンセンでは中層ビルが建設されたり、遊園地の観覧車などで楽しむ多数の人たちやお祭りの多くの露店と雑踏を見るとまた格差が拡大しているように感じました。更に憲法制定目処がはっきりしない中、教育制度、学校運営や校長・教師人選などに影響を及ぼし建築資材調達もままならないとラマ理事からのお話でした。また建設支援校の地域も広がっていて学校を訪問する時間も多くなり、よほど道路が整備されない限り拡大は限界のように思えます。このような状況からルンビニ地区では、地元から校舎建設の強い要望と建設から10年以上経過している校舎（7校）補修とをうまく調整していく必要があります。

昨年の「ルンビニ地区活動の所感」でも述べましたが、傷みの激しいところの補修や備品類の充実を含めたソフト化に活動の重点を移して行くのが良いように思います。ゴミ処理問題については、ラマ理事との話し合いの中において、学校内で焼却する方法が現実的だとのことから具体化が課題です。

更に教育制度が固まらない状況で「10+2」への対応、SLC合格率UP、図書収納方法の改善、及びタンセン地区での図書支援以外の学生たちからの要望対応など新年度に向けての課題と対応策も得られた支援の旅であったと思います。

今回も多くの子供達のキラキラの瞳と出会ったほか先生方と楽しく交流できた支援の旅でした。また参加者全員が大過なく旅をして無事帰ってくる事が出来ました。ラマさん・参加者および日本で色々対応して頂きました加藤理事、大谷副理事長にお礼申し上げます。



「世界遺産都市のバクタプルに泊まる」

今村 旭

3月5日早朝6時に町田バスターミナルに全10名のメンバーが集合して出発した。羽田発香港乗継ぎ、ダッカ経由で当日の夜にカトマンドゥに無事に着いた。飛行時間が長いのでいささか、以前よりも疲れを感じながらの到着でした。今回17次のメンバーには2人のフレッシュな会員が加わり、登山が趣味で体力充実の弘津さんと、最若年のソロプチミスト町田さつきの会員でもある安元さんの二人が旅を賑やかにしてくれました。

3月5日深夜ヴァイシャリホテルで疲れをとり、6日より早速、教育支援の始まりです。国内線にてバイラワへ。お決まりの視界不良で結構待たされ、突然のコールが有り、あわただしく乗り込む。バイラワ空港名物のちっちゃいおじいさんが出迎えてくれ、まだ元気だった。早速にサラソティー校に向かう。建設予定校だが、資材の関係で遅れているので現地様式に依る地鎮祭のみを校庭の片隅で行った。地面に穴を掘り火を灯し、水を供えて清め日本と似たような地鎮祭であった。

例年のように四ツ葉会の布袋やノート鉛筆などを子どもたちにプレゼントした。和田、中野両会員がここで音楽交流の歌を披露した。オカリナ伴奏により日本の唱歌を大きな紙に現地語で歌詞を書いた工夫がされみんなと歌った。何かひとつでも交流の時があると、子ども達とも触れ合えて心地よかった。ついで、シッターダ校、ティナウ校、スンディー校を忙しく巡り、スンディー校ではあの名物熱血校長がやや寂しげに「自分はこの3月で退職しますがここに来て、他の団体からの支援で新たに二階建て10教室を目標に建築を行い、当校をカレッジに育て上げ15年12月までに成し遂げたい。については今までのミカの会との縁を大切に今後よろしく変わらぬ支援をお願いしたい。」と挨拶した。続いてジャナヒート校、ビバルハワ校までを初日の訪問としてこなしした。

7日は午前早々にマズワニ校、アディアリ校、ヤナトラハ校、ルカダハワ校の土地の検分等をこなしした。8日はグルワニマイ校、パダサリ校を最後にルンビニ地区の学校訪問をようやく終了した。ルンビニ地区は訪問校があまりに多く滞在時間の制約もあり、あまり本来の目的である交流という面での工夫が必要かと思った。例えば、大縄跳びとかドッジボールなど、体を動かすことをすると、過去の経験から子ども達は非常に喜んで我々も体力的に大変だが、交流という面では効率が良いように感じる。支援の旅も毎日が移動に忙しくタンセン、ポカラ、カトマンドゥと後半は時間があっという間に過ぎる。



ここで、旅の初の試みとしてカトマンドゥの宿を世界遺産のバクタプルにとった。宿はタマディー広場のごく近くのサニーゲストハウス。設備は贅沢は望めませんが、困ったのはトイレでした。床面全部水浸して水道の漏れがあったようで、靴に履き替えないと使えない状態で、これはとても難儀なことでした。

夜やっと床に入り、寝入ってしばらくしたら、早朝午前3時ごろあちこちの祠から鐘を打ち鳴らす信者のお参りの音で目が覚めてしまった。窓の下は石畳の道なので硬い靴底の人の足音がカッカ、カッカと響いて多くの信者達が活発に朝のお勤めに精を出しているのだ。鐘のカーンカーンが「早くお前もお勤めをせい」と言っているようで、結局同室の西沢さんと、外はまだ暗いが、こうなったらお参りに行こうということになり身支度をして朝の冷気に入ってしまった。

ニャタポラ寺院近くのヒンドゥーの祠に向かう。老若取り混ぜて熱心な信者が交代で引きも切らずにひざまづき、ご神体に額をつけてお祈りをしている。しばらく見ていると脇にいた長老らしき老人が「あんたも同じようにお祈りしなさい」と身振りで示し、額にヒンドゥーの赤い印ティカをつけてくれた。次いでご神体に額をつけお祈りをして立ち上がると「お賽銭を」と身振り。ルピーを取り出しお供えて現地の人々と今日の平安を祈った。夜も白み広場には続々と人が集まってくる。野菜売りの行商の人も開店だ。雑多な人の渦の中で異国の朝を存分に味わった。

バクタプルといえば私にとって木馬屋のおじさんと会うということ。今年の木馬を買い、お互いの元気を身振りで喜び合った。おじさんは前歯が段々と抜けて、再会のうれしさを顔一面に出すかわいい人だ。木馬の仲間は家の棚でもう大変な数で賑やかに元気です。何度来ても迷路のようでまだ地理がわからない。寺院も覚えられない。バクタプルは奥が深い。また来ることにしよう。

「ネパールへの図書支援」

齋藤 美智子

とても旅慣れた、素敵な皆様とボランティア仲間の安元さんと同行出来た事、「嬉しかったあ」と朝からしきりに思っ旅の記を書いています。

私のもう一つ所属しているボランティア団体「国際ソロプチミスト町田一さつき」は女性だけで構成されているので支援対象の目的がはっきりしています。広く全般的な支援から近年はく女性と女兒（子ども）の為にどのような支援をしたらよいのか・・・と絞られたテーマになってきています。

そんな中、ミカの会を通しての図書支援は次回より、く女生徒が手に取って役立つ本の選定を、ヌルブ・ラマ氏にお手数をおかけすることになりますようお願いいたしました。今回は、現地の学校から要望のあった本をお渡しいたしました。来年からは贈呈の本の内容が少し違ってくるかと思えます。

今回、旅先の街角やバザーの本屋さんを覗きく女性と女兒のための・・・本・・・？と目を凝らしている新たな自分を発見しました。（まったく読めませんので絵やらカットを見つけながら）看護婦を目指す本はないのかな～。環境衛生に目覚める本はないのかな～助産婦になるための本は～等々

一日一日迎える各地での日の出・日没。ヒマラヤ山脈の絵画のような、神々しい山々。満天の星。大きな天の川。流れ星。足元を見れば苛立つほどのゴミとホコリだけれど、人々のにこやかな笑顔。子ども達の輝く瞳。菜の花、青々とした麦畑。シマル（火えん花）の赤い木（牛の大好物・実は漬物・種の中身は枕の綿代わり！）。合歓の木と似ているジャカラントの木（巨大なえんどう豆のような実は持って帰ったナ）。一昨年訪れた時と同じ3月11日を再びネパールの地で迎えながら、自分は生きているんだ！と実感しました。



「支援の旅に参加して」

濱崎ヤスエ

ミカの会に入会して16年に。トレッキングを含め、ネパール行きは10回になります。すっかりはまってしまいました。今回はルンビニの既支援校13校を回りました。何度も行っているのに学校名も場所も覚えられずにいましたが、今回は支援校の地図を用意して頂いたので助かりました。一校、一校チェックして回りました。

集落と、その周囲の風景、少し色褪せた校舎、懐かしかったです。そしてたくさんの子供たちが待っていてくれました。

人なつっこい笑顔一杯で。

長旅の疲れも吹っ飛びます。一人ひとりに声をかけてねーと、鉛筆を手渡しました。行儀よく受け取ってくれて、気持ちが通じ合う時間でした。

休校日で生徒のいない学校もありましたが、13校を回り、充実感がありました。

タンセンでは学長たちとの夕食懇親会。翌朝ヒマラヤが見えるトリブバン大学の校庭でバレーボールの寄贈。数力所の教室の見学をして、学生達との交流の時間をもちました。

今回の支援の旅は滞在中ずーと好天に恵まれました。タンセン、ポカラ、そしてナガルコットと行く先々でヒマラヤの山々を見る事が出来ました。

これからのネパールの教育支援も様々な問題を抱えていますが、私はただネパールが好きで、子供たちが好きで参加させてもらっています。

今後ともよろしく願いいたします。9日間楽しい旅でした。

「第17次教育支援の旅に参加して」

弘津 肇

ミカの会に入会して1年、現地の支援活動はどんなものなのか？ 今ひとつ掴みきれないままだった。そんな私にとって今回の参加は大変感慨深いものがあった。ネパールは初めてだが皆さんの助言で不安はまったく無かったし、むしろ期待に胸を膨らませての出発だった。

最初に足を踏み入れたカトマンドゥは、埃っぽさとゴミが目立つ。ただっ広いだけの町であり印象に残っていない。翌日からルンビニ地域、タンセン、ポカラ、バクタブル、ナガルコットと6日間のロードツアーであったが、期間中は好天気に恵まれこの上ない旅となった。

さてタライ平原の日の出と日の入、山上に広がるタンセンの夕暮れ、サランコットからマルシャンディ溪谷越しに見る西ヒマラヤの山々、歴史を刻んだバクタブル市街、いずれの地でも連続と続く歴史・文化・風習の中で生きる人々の力強さを体感した感動の旅であった。その中で最も脳裏に焼きついて離れないのがルンビニ地域だ。

どの集落も町とはかけ離れたインフラ、粗末な住戸と服装、物質面では大きな地域格差がある。人々は生きること一杯だろうが、不思議と悲壮感を感じなかった。そんな背景にあって学校だけは粗末ではあるが凜と建っていた。

全てが決して豊かではない。なのにどの学校でも歓迎のレイと花を準備し、そして大きく気持ち良い挨拶で迎えてくれた。皆のはにかみながらも可愛い笑顔が印象的だった。

年少の子の小さな手から摘み取ってきたばかりの綺麗な花を受取った時のことを思い出すと今も目頭が熱くなる。教室の中では年端も行かぬ弟や妹の面倒を見ている生徒もいる。しかし皆しっかりと先生の話の聞いているのである。ルンビニの先生と生徒の中にミカの会の思いを見る事ができた。ここでは今もその思いが確かに生きている。皆が厳しい現実から早く抜け出すためにも、学校支援の継続が必要であることを痛感した。

最後に初めての体験で差し出がましい事であるが私見を一言①ゴミの集積兼焼却場の設置とゴミを無くす啓蒙活動の推進②効果的支援のための他団体と協働活動③現地の人と共に汗を流す交流活動の3点を提案したい。

末筆ながら全員無事帰国できたことを感謝すると共に、旅先で皆様に大変ご心配をお掛けしたことをこの紙面を借りてお詫びしたい。



「ルンビニの学校訪問」

中野 千恵子

3月5日(水)「ネパール教育支援の旅」の出発です。町田駅羽田行きバスターミナルに朝、6時10分に集合しました。電話連絡、メール連絡はしましたが本当に集まるか心配しました。今日が全員揃っての初めての顔合わせです。

羽田発香港経由カトマンズ着です。予定時刻より少し遅れての到着となりました。カトマンズ空港でヌルブ・ラマさんに会ったときは本当に安心しました。いつものタメル地区あるバイシャリHに向かいました。夜、遅くでしたが道も綺麗になっていることもあり、あっという間にホテルに到着です。時差があるので日本では朝の3時を回っているの頭がクラクラとしています。

3月6日(木)バイシャリHで朝食を食べ、カトマンズ国内空港に向かいました。10時半位にバイラワ空港着いてから、皆、四つ葉会からの布袋とテニスボールをスーツケースから出しました。新しく校舎を建てるサラソティ校にプレゼントする為の準備です。

車を少し走らせてからプレゼント用のキャンディを買い求めサラソティ校に向かいました。サラソティ校では生徒、母親、学校関係者等が待っていました。そして、ネパールで初めての地鎮祭が始まりました。シャベルで穴を掘り、レンガを入れ、水、お花、お線香を入れてお祈りです。そして、布袋、ノート、鉛筆、キャンディを生徒たちに配り、子供達との歌の交流です。

和田さんが作ってきた「春がきた」の歌詞紙をひろげ和田さんと私のオカリナ演奏に合わせ会員の皆、子供達が歌いました。とても良い思い出となりました。そして、シッタルダ小中校、ティナウ校には図書、スندی校を回り宿泊する笠井Hに向かいました。もう、2時すぎです。久しぶりの日本食を頂き、ほっとしました。午後3時過ぎにジャナヒート校、ビバルハワ小中高校を回り笠井Hに戻りました。

3月7日(金)朝食を食べてからルンビニ公園のお参りをしました。笠井Hに近い入り口から入り自転車タクシーで川沿いをまっすぐの道を走りました。降りてから後ろを振り返ると日本寺が小さく見えました。マヤ聖堂に裸足でお参りをして菩提樹に向かいました。今年は綺麗なタルチョが多くはためいていると感じました。

今日の訪問校はマズワニ小中高校からです。図書室で本を寄贈し会員が別れてノート、布袋、鉛筆、キャンディを配りました。参加会員が多いと時間が短く済みます。次のアディアリ小中校は先生のみでしたので図書を渡しました。



ヤナトラハ小中高校は試験の為、生徒はほとんどいないので教室にいた生徒のみにノート、鉛筆、キャンディを渡しました。次は今朝に笠井Hに来訪陳情に来られたルカダハワ小中高校に向かいます。距離は近いのですが、橋がない為、畑道をクネクネと走ります。ルカダハワ小中高校は校庭が広く、校長室は扇風機が回っていました。電気が来ているのでしょうか？使っていない教室もありました。

その後、笠井Hに戻り昼食です。昼後はカピラ城跡見学です。今、ルンビニでは結婚ラッシュです。道には結婚式場が開かれ、綺麗に飾られた新郎新婦が乗る車に何度もすれ違いました。お幸せにと思います。

3月8日(土)今日はタンセンに向かう日です。学校も休みの日ですがグルワニマイ小中高校に寄りました。図書の本が行き違いのためか積んでなかったので布袋、ノート、テニスボール等を渡し、近くにいた子供達に日本から持ってきたTシャツを着てもらいました。とても喜んでいました。もう1校視察校のパダサリ校に寄りました。広い校庭は子供達は遊んでいたりと、車の運転の練習をしていました。校舎はきちんと建てられ、トイレもあります。又、回りの家々はルンビニの家とは格段の差で良いです。ルンビニ、バイラワと別れタンセンに向かいました。



「ルンビニに想う」

松浦 陽子

久々のルンビニは田んぼの麦の緑と痩せた菜の花の黄色が眩しかった。カトマンズの大气汚染がひどくなり、空気を吸い込むと喉や鼻がとても刺激され、正直「長く居たくない」と感じた後のルンビニだったので、青々とした麦やタライ平原の樹木の風景が五感に優しく染み込んできたのだと思う。

以前よりレンガ工場などが増えて、メイン道路はトラックやオートバイが頻繁に行き交う。いつものこのマンゴー街道、街道沿いに植えられているマンゴーの木々が排ガスや埃で真っ白になっているので、無駄だと分かっているけど、「シャワーホースできれいに洗ってあげたい」と思ってしまう。

そして一度このマンゴーがたわわに実った姿を見てみたいし、木からじかにもいで食べてみたいとも思った。いつも訪れる時期が違うのでマンゴーがなっている姿を見たことがない。もっともこの地では熟すのを待たず、青い内にもいで漬物などにしてしまうらしいが・・・。

さてルンビニ訪問のメインは学校訪問。最初の訪問校サラソティ校は予定では落成贈呈式を執り行うはずであったが、砂利などが不足して今回の支援旅行には間に合わなかった。それでも一応簡単な贈呈式が行われ、準備してきた先生方へのお祝い金や記念品そしてノートや鉛などを皆で配った。

齋藤理事長の挨拶の後、ラマさんが生徒たちにノートの表紙に載っている新幹線とスカイツリーの写真と裏表紙の言葉の説明をしながら、一生懸命勉強するようにと話した。その返礼にサラソティ校の若い女性の校長先生が挨拶をされた。

本当にまだ若い校長先生で、眠いのかぐずるまだ2歳ぐらいの息子を抱き上げながら、生徒たちを並べせたり指示を出したり、「日本の教師達よりたくましいな」と関心させられた。

その後、和田さんと中野さんによるオカリナの伴奏で「春が来た」を皆で合唱し交流を深めた。もうこれで儀式は終わりかなと思ったら、先生の一人が校庭の片隅に案内し、何やらクワの様なもので土を四角く掘り始めた。どうやら地鎮祭をやるらしい。日本だとお酒をかけてお清めするが、ここではレンガを5枚程横に立てて並べて、その上にマリーゴールドなどで作ったレイを載せ、最後に皆でお線香を上げて工事の無事を祈った。全く予想していなかった出来事だったので、落成式の代わりにとても珍しく又素晴らしい儀式に立ち会えたことが嬉しくて、つついっ何枚も写真に収めた。

次の日の朝、釈迦生誕の地ルンビニ聖地公園を訪ねる。その時に入り口までほんの数分だが、皆で力車に乗った。若者の車夫はさすがに早い私と和田さんが乗せてもらった力車の車夫は大分おじさんで、マイペースではあるが彼なりに頑張っている感じで、私達は内心では「そんなに早く走ってもらわなくても良いのに・・・」と早く走られると乗り心地が良くない乗り物なので、ちょっと複雑な気持ちになったりした。

さてこのルンビニ聖地公園は、入り口の警備が以前より少し厳しくなった以外は、菩提樹の大木もこの木に住み着いているリスもラマ僧も以前と変わりなく、静かで穏やかな時間が流れていた。変わったといえば韓国人の人々が以前より多くなっているのかも。公園内を流れている川には鶴や白鷺がえさをついばみ、近くの木々にはお猿さん達が元気に飛び跳ねて遊び、とても豊かな自然が守られていて、心地よい場所だった。ルンビニで想った事の一つに、あちこちの田んぼに繋がれて飼われている山羊さんのことだった。この地の山羊は「大丈夫かな・・・」と思うほど小ぶりできゃしゃに見えるので、「食用」と聞いてちょっとびっくりしたが、食べると案外美味しいのだとか。今回、支援の旅に初めて参加したYさんが、「この女性達が自立する手段として、もっと沢山の山羊を飼って収入を増やせる仕事が良いと思うが、彼女達に資金を融資して上げられる基金みたいなものがあればと思うんですよ」と言って、何とか支援する方法を探したい思いを熱く語っていた。

それが実現できたらあのタライ平原のルパンティヒ郡の女性達にとって、どれだけ将来に夢が持て、笑顔で暮せるようになることかと想像して、思わずこちらまでわくわくしてしまう。色んな人の協力で、何とかこの話が実現することを切に願っている。



「初めてのネパール」

安元 安紀子

今回初めて教育支援の旅に参加させていただき、観光旅行では決して見られない、驚きと感動の1週間となりました。支援の旅直前に入会させていただいたので、ネパールのことをよく知らずに出発しましたが、ルンビニへの移動後、街並みもインフラも、そして想像していた支援先の学校の状況も、私の「これくらい」をはるかに下回る状況に驚愕しました。いかに日本は物にあふれ、道路も電気も水道も整備されているのを当たり前で思っているか、我ながら恥ずかしく感じました。同時に支援している子供たちの純粋さ、家の手伝いの大変さ、学校がどれだけ遠いのか、支援先を回れば回るほどそのことに驚かせられました。

今回実際に現地を見られたこと以上に意味深かったと思うのは、支援先の先生や子供達に直接質問できたことです。今までの校舎増設や本・文具の支援の形に何も疑わずにいましたが、直接見て聞いた中で今後の支援の形は少し違う形にしていくのもいいのではないかと思ったのです。

英語がわかる学生に、ノートを渡す短時間に欲しい本や物の希望を聞いても、男子学生と違って女子学生が答えてくれることはありませんでした。最初は単に恥ずかしいからかと思っていたのですが、同時にネパールの女性に「遊ぶ」という概念や相当する言葉がないことや、結婚したら今までの勉強や仕事はあきらめるのが当たり前と考えることを知り、理解できるようになってきました。彼女達は以前日本女性がそうだったように、彼女達の文化の中では女性の自立という考えは想像しにくいのです。だからこそ直接的な支援の形を変化させることで、彼女達に「こういう選択もできる」ということを教えてあげたいと思います。少しずつ彼女達の生活に広がりができるように・・・。

またタンセンでの先生達との交流会では、予想外の交流が持てました。中盤まではおとなしくしていたのですが、お酒もすすみ、大学学長や先生、女子校の校長先生とは半分くらいの理解度でしたが、お互いの想いをお話しました。余談になりますが、年齢の話になった時に私の年齢を25歳と伝えてくれ、あまりの年齢差にみんなで大笑いしました。いくらなんでも、-23歳はないですから・・・。嬉しいを通り越して、ちょっと恥ずかしくなってしまうけど。(汗)是非次回の教育支援の旅は、片言のネパール語やインド系英語を覚え、ネパールの女性らしい服装をして、もっとたくさん笑顔が見られる支援の旅にしたいと思います。

「ネパールと私」

和田泰子

第17次教育支援の旅、それは私にとって20回目のネパールの旅となりました。今回の旅の様子は参加された皆さまが詳細に書いて下さると思いますので、勝手ながら、私は自分とネパールの係わりについて書こうと思います。

ヒマラヤを撮り続けていた山岳カメラマンの弟が、1994年正月、44歳で剣岳チンネの氷壁から天に昇ったのち、弟がカメラで切りとった夥しい数のヒマラヤを、どうしても自分の目で見たくて、その年の秋にネパールを訪れたのが、私とネパールの馴れ初めでした。それより5年前、約2年間の介護の後、父を見送った母を、弟はネパール・ランタン溪谷のトレッキングに連れ出しました。その時、母72歳、初めての海外、初めてのネパールでした。

息子と共に深い思い出を残す旅となったようです。1995年には遺作写真集「ヒマラヤ」の売上を基金とした「大石一馬ネパール奨学基金」が設立され、家族にとってネパールは大切な存在になりました。

1997年、写真集を介して、ネパール・ミカの会と出会い、教育支援の旅にも参加するようになりました。ミカの会で初めてルンビニを訪れた頃は、ほとんどの小学校は150人から300人規模で、中学校は遠く、女生徒は4、5年生になると仕事や家事に追われ、学校に通えなくなる状況でした。それから17年、ミカの会が校舎増設した学校は、ほとんどが300人から700人規模になり、中学または高校までに発展し、女生徒の就学率は大きく伸びました。

私にとっても、20年の間に色々心の変化がありました。何を目にしても弟につながり、胸の痛みと涙でしか見られなかったネパールが、心静かに旅出来る場所に変っていき、エベレストエリア・アンナプルナエリア・ランタンエリアをそれぞれ2回ずつトレッキングすることを通して、弟がフィルムに残した沢山の白き山々と出逢うことが出来ました。またタンセン、バクタプルでは不思議な巡り合わせで、家族とも言える大切な方々とのご縁が出来、ネパールは第2の故郷のような温かい場所になりました。

今回の旅でも、我が儘を許していただき、その家族を訪ね、幸せな時間を一緒に過ごすことが出来ました。母は91歳までミカの会の皆さまとネパールの旅を共にし、家族との旅は94歳まで続きました。母はネパールを訪れる度に、ネパールから生きる力を頂いていたのだと思います。

間もなく97歳を迎える母は、今回の支援の旅には参加できませんでしたが、私たちにこのような人生と多くの人々との出会いを残してくれた弟と、高齢の母をいつもいつも暖かく見守り、一緒に支えて下さったミカの会の皆さまに心から感謝しております。



***** 3月度理事会ニュース *****

2014年3月定例理事会が22日開催されました。

第17次教育支援の旅が無事終わり、その報告及び総括が行われました。内容はこの会報の別掲をご覧ください。また2013年度事業計画進捗状況の報告が各理事からあり、概ね予定通りであることを確認しました。さらに2014年度事業計画について各担当理事から提案等があり審議しました。5月の総会に諮るべく引き続き事業計画を策定中です。

西澤

「事務局便り」

会報がお手元に届くのは、桜が散り若葉が萌え出でる頃でしょうか。3月、4月で町田、相模原でのさくら祭りが終わり、5月は定期総会があります。新たな気持ちで、新年度を迎えたいと思います。これからの予定

- 5月17日(土) 2014年度定期総会
町田市民ホール 第4会議室 17時40分～
(終了後、市民ホールレストランにて懇親会があります)
- 5月18日(日) 相模台インターナショナルフェスタ
南台公園(相模原市南区南台4-1-1) 10時～15時
- 5月20日(火) 21日(水) ラマ氏と行く懇親旅行(別紙参照)
- 6月14日(土) 町田国際交流センター協力部会主催
ネパール・ミカの会と日本雲南聯誼協会による講演会
和光大学ポブリホール鶴川・多目的室にて
ネパール・ミカの会 13時15分～14時30分
日本雲南聯誼協会 14時45分～16時15分
- 6月21日(土) 定例会 こもれび堂13時30分～
- 7月19日(土) 移動例会・講演会 ジギャン・クマール・タパ氏
時間、場所未定

和田

2014年6月14日(土) 於：和光大学ポブリホール鶴川・多目的室(定員90名)

あなたも私もできる「国際支援」二つの例

1) 13:00～14:30 【NPO法人ネパール・ミカの会】
子ども達の未来は「識字」から始まる
 講師：理事長・西澤雄也 氏

ネパール・ミカの会は、ネパール・ランタン溪谷を中心とした、教育支援活動を続けて17年になります。
 「ゆっくりと、まよやかに心を広げて手から手へ」
 を活動のモットーにして教育活動を続けてきたことにより、当地の人々との深い信頼関係が生まれ、大きな成果をあげています。
 スライドを交えてネパール・ミカの会の活動の様子をお話しします。
ネパール・ランタン溪谷のことば



2) 14:45～16:15 【認定NPO法人日本雲南聯誼協会】
ハードからソフトへ、日本と雲南の交流を深める教育支援
 ～その活動の展開～
 講師：理事長 松野孝雄 氏

中国・雲南省は東部アジアと接する山岳地帯で、雲南の地に25の少数民族が独自の文化を守りながら暮らしています。都市部に比べて経済や教育の面で遅れ残りがちな少数民族の子どもたち。
中国・雲南のことば

認定NPO法人日本雲南聯誼協会は、14年に渡ってその地に23校の小学校を建設し、学ぶ喜びと未来への希望を当地の子どもたちに届け続けてきました。
 雲南では、雲南省の現状や支援活動を通して最新鋭の日本中間の人的対応についてお話しします。
ネパール・ランタン溪谷のことば



【高登村の現状は裏面に掲載してあります】